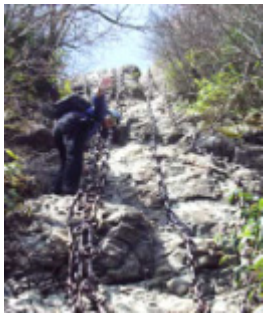
BEN STYLE

第８４号
ＢｅｎＨｏｕｓｅ
編集　尾上大輔
姫路市南条637
TEL:079-222-5500
www.benhouse.co.jp
バックNO.は上記WEBで

「１５年間の憧れた山にやっと登れました。」

西日本で一番高い山って知りませんよね。霊峰石鎚山です。１９８２Ｍ、大山よりも阿蘇山よりも高いんですよ。１５年前四国へ家族旅行の時、通った石鎚ハイウエイの土小屋から見た石鎚山、いつかは登ってやろうと思ってました。四国なのでなかなか行く機会がなく今年まで温めてました。５／13松山出張決定、この機会にと無理やり行って来ました。人生あと２０年になるとこれが許される？いいよなぁ。前日は伊予西条泊、６時起床、バスは始発の６時４０分、ロープウエイで５合目までそこから石鎚山成就社まで３０分、お参りして本日の登山の安全を祈願する。頂上までは３時間の一般コース、楽勝楽勝？？？まずはブナの林間コースを１１時間で八丁坂まで、

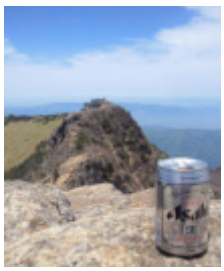
途中70前のおじさんに、「登れるかな～」なんて尋ねられる、出で立ちを見ると観光客風です。それも「二十歳前後の登るのいやいや娘」連れである。「うーんちょっと無理違う。」なんてガイドする。途中、ベトナムの若者達に初めて抜かれる（すぐ休憩するので後で抜き返した）。岡山の〇〇講の白装束部隊は軽く抜く。若いがおでぶちゃんである。山の最大のハンデはご存知かな？自重である。程なく鎖場に到着「試しの鎖場」である。せっかくなので登りだす、長さは30Ｍ位かな、10Ｍ位登ったところで、おお怖ぁ、止め止め、命がもたん、しかし下ろうにも、もっと怖い。ここの鎖は垂直に近い、鎖の丸いところに足を入れると安定する、行者の地下足袋にはぴったりだが、何せ登山靴はゴツイので入らない。ふぅと一息して、意を決す。登るしかない。この間？



（１５年前）の槍ヶ岳の垂直30Ｍ

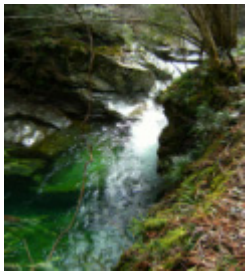
はしごを登ったやろ、それに比べたらちょろい。ちょっぱり怖かった。これを登りたいのは修行の人やな。登山家には無理無理！程なく行くと一の鎖27Ｍです、パス。次は二の鎖65Ｍ、パス。続いて三の鎖68Ｍ、ちょっと覗きに行く。うぁっぱりパス。迂回路を順調に登っていく、山肌にツラ発見５月15日ですよ、結構冷えるんやぁと、ビックリ。だいたい２時間で頂上到着。まずは石鎚神社へ参拝。「百円です、私の周りの皆様の幸せをお祈りいたします。」最近はこれです。子供の頃は自分の事、家族を持って家族の事、歳いって周りの人の事、老いては日本国の事、死ぬ前は世界の事、死んだら宇宙の事、はぁなるほど、それで死んだら仏さん神さんと呼ばれるんやな。刹他の精神が仏様か、なんか悟った感じやな。頂上小屋でビールを買う。「５百円？、安っ。」魚

町では５本で一万二千円やから５分の一やな。おお安っ。ありがたく買わせていただく。「おおきにおおきに」神社がある頂上は弥山です。少し南に天狗岳です、そこが西日本最高峰１９８２Ｍです。細い岩尾根を伝っていきます、左は垂直の岩壁で800Ｍは切り立っています。足を滑らせると瞬間「宇宙へ旅立ちです。」慎重に登っていきます。１５分で到着、３６０度さえぎる物なし、瀬戸内海がきれいです。高知のほうは何か太平洋が見えてなさそう。曇ひといそうでない快晴、月に一度かなッイてるッイてる。弁当とビールで祝杯です。やったぁ。頂上で一時間過ごして下山にかかる。せっかく登って１時間で降りするなんてもったいないと思いまするか？そうではないんですよ登ってる時も下っている時も楽しさがあります。だから同じコースへは降りません。最後に三の鎖を頂上から見に行くと、小学生の弟と姉が平気な顔して登ってくる、後ろには夫婦が、なんと親子４人づれ、すごいこの家族。鎖で登る人は30％位かな、あとはみーんな迂回路です。１年に一人二人は転落死するそうです。もちろん大ちゃんは帰りも迂回路です。第一生命さん、そ臆病者割引とか、禁飛行機割引の方がありがたいよね。来年はなんてのも作ってほしいなデス。下っていくと、「ゲッなんと70前おじさんと娘も頂上手



前まで来ていた。「なんとその二人は普通の靴、普通の服なんですから、荷物もペットボトルだけなんですから、すごい根性、さすがは大阪人。程なく下ると、岡山の〇〇講のおでぶちゃん、金剛杖に山伏姿は勇ましいのだが、遅々として足が上がらなそう。4時間はかかっているようです。さすがに重量物運搬は大変なようです。わが腹はこの程度でよかった。帰りはローブウエイに乗らずに下る予定、分岐路で休んでいた先程のベトナム若者3人を連れた日本人リーダーさんに道を尋ねる。降りるんならきれいな渓流沿いの天柱岩コースがいいんじゃない。魚も見えますよ。「何時間くらいですか？」「4時間位かな。」「ふーん今は12時50分、17時のバスにぎりぎりか、乗り遅れたら下の旅館に泊まればいいか。よし、きれいなコースで行こう。ベトナム兄さんが、「これどうぞ。」と、みかんを下さる、ありがたい事です、「ありがとう、じゃーみかんじゃなくてそちらのバナナをください。」なんておじさんずうずうしい。いいんです、山へ登ったらみんな友達なんです から。バスの時間もあるので、道を急ぐ、下りかけると原始の森に入る。ここは石鎚山では最高の森です。もののけ姫の森のような森をジグザグに下っていく。15分くらいで登ってきた人と会う。あとは一人も一匹も会いませんでした。静かな道でした。孤独を楽しむ？いえいえ寂しくて少し不安ですよ。

「写真？」「むりむり、電池がないんだもの、一目盛りの電池は緊急連絡用に残しておきたいので携帯電話も切る。」したがって時間も分からない。どんどん下り、渓流沿いの気持ちいい道を行きます。渓流ってそうめん滝位？いえいえ大きな山の渓流は、ふちは20M位の深さ、水量も豊富、石は一軒家の大きさで圧巻ですよ。時間が分らないと結構早歩きになります。太陽の角度で今で3時かなんてはかりながら、急いで下る。最後人里が近くなり、廃村を通る、つい先日まで住んでおられた様な家の軒先をとおり県道まで到着、さて、時間は？と携帯ｏｎ。4時か、コースタイム4時間を3時間、結構いい足です。バス停につくと、みやげ物やさんのおじさんが声を掛けてくる。3時のバスは間に合わんかったな。あと、1時間20分まってな。「はいよ、こんな田舎だと1時間なんてなんともない。」「おじさんビール頂戴」はいなと受け取りベンチに座りグビイとやる。生き返る生き返る最高。



「今日は、あと〇〇人下って来とらん。」

「はっー」なんとこのご主人は毎日バスで降り立つ登山者をインプットしているそうです。「8時のバスでやってきた60代の3人グループは上で泊まりやな。」とか、「10時のバスで来てローブウエイなしで登っていった〇〇とは途中で会ったか？」「はい13時頃。〇〇でなんていうと「いい足やな。」なんて具合である。インプットとアウトプットが一致する不思議な登山届替わりの記憶力のいいご主人でした。土産物屋さんのビールが切れたのでもう一軒の土産物屋へ、ビールを飲んでると、ベトナム君たちが4人で下りてきました。「道に迷いませんでしたか？結構分りにくいところがありましたよね。」なんておお互いをねぎらう。ベトナム君たちは体力抜群で歩くのは早いのだが、靴が悪いので痛くなって休憩が多いそうです。4時間弱で下ってきたようです。日本人リーダーの人は職場の上司で、「彼らは本当にいい子達です。」との事、ベトナムの方との短い交流でしたが、国際交流になりました。「麓まで車に乗っていきますか？」と親切に言っていただきましたが、バスも気楽であるのでお気持ちだけとお礼を述べる。運転手であるリーダーさんがビールを一本飲んでたのも田舎だからまあいいか。ベトナム君たちを見送ってまたバス停へ、どんどん見た顔が集合してくる。始発で来て最終で帰る人ばかり。たぶん足の遅い人は上り下りをローブウエーを使ってもこのペースなんでしょう。コースタイムは6時間30分です。休憩をいれたらこのペースなんか。行きも帰りもおんなじバスですから顔見知り、同じ山に登った同行者でみんな仲良しモード。一種の即席コミュニティ状態です。そこに例の登山届けご主人が入って盛り上がる。まあなんと暇人の集まりか。バスで1時間ゆられ伊予三条へそこから新居浜へ電車で移動、本日新居浜泊。翌日は別子銅山の東平へレンタカーで、麓の観光のみでと思っていたが、地元グループに「遺跡を見るんだったら少し登らないと。」とか「あけぼのつつじが満開ですごく綺麗ですよ。」と、勧められ、あとを付いて5時間、予定外の西赤石山へ登ってしまった。二千M級の山登りを2日連続経験、結構タフでした。お山が好きでない方も、四国のマチュピチュ別子銅山は是非お尋ねくださいね。